

令和6年度

授 業 計 画 書

学科・学年	柔道整復学科 1年	科目名	柔道整復実技VI	授業時期	前期	授業時数	30
実務経験		担当者	小川 勝	授業方法	実習	単位数	1
到達目標	1)上肢～上肢帯の骨・靱帯・筋の触診が出来る 2)体幹の骨・靱帯・筋の触診が出来る 3)下肢の骨・靱帯・筋の触診が出来る			評価方法			
授業概要	実習			期末試験 100%			
教科書等	カラー写真で学ぶ 四肢関節の触診法	使用器材					
週	授 業 項 目 ・ 内 容						実施結果
第1週	総論/四肢関節の触診法1						
第2週	総論/四肢関節の触診法2						
第3週	肩関節・上腕部1						
第4週	肩関節・上腕部2						
第5週	肩関節・上腕部3						
第6週	肩関節・上腕部4						
第7週	肘関節・前腕部1						
第8週	肘関節・前腕部2						
第9週	肘関節・前腕部3						
第10週	手関節・手部1						
第11週	手関節・手部2						
第12週	手関節・手部3						
第13週	手関節・手部4						
第14週	まとめ1						
第15週	まとめ2						
授業外 学習指示等							

令和6年度

授 業 計 画 書

学科・学年	柔道整復学科 1年	科目名	柔道整復学 I	授業時期	前期	授業時数	30
実務経験	整骨院約36年開設運営	担当者	谷口 禎二	授業方法	講義	単位数	1
到達目標	柔道整復師の成り立ちについて理解する。骨損傷の各分類法とそれぞれの特徴を理解する。骨折の特徴的徴候を理解する。骨折に於ける合併症を理解する。			評価方法			
授業概要	骨折に関する総論教育である。			期末試験 100% 小テストを平常点として加減 (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	柔道整復学(理論編)	使用器材	プロジェクター				
週	授 業 項 目 ・ 内 容						実施結果
第1週	柔道整復概論 医学史						
第2週	人体に加わる力、損傷に関する身体の基礎的状態、各組織損傷 損傷時に加わる力						
第3週	骨損傷の分類 その1						
第4週	骨損傷の分類 その2						
第5週	骨折の症状 その1						
第6週	骨折の症状 その2						
第7週	骨折の症状 その3						
第8週	骨折の合併症 (併発症) その1						
第9週	骨折の合併症 (併発症) その2						
第10週	骨折の合併症 (続発症) その1						
第11週	骨折の合併症 (続発症) その2						
第12週	骨折の合併症 (後遺症) その1						
第13週	骨折の合併症 (後遺症) その2						
第14週	骨損傷の分類～骨折の症状まとめ・練習問題						
第15週	骨折の合併症まとめ・練習問題						
授業外 学習指示等	復習ならび小テスト対策学習						

令和6年度

授 業 計 画 書

学科・学年	柔道整復学科 1年	科目名	柔道整復学Ⅲ	授業時期	前期	授業時数	30
実務経験		担当者	片岡 絹子	授業方法	講義	単位数	1
到達目標	1.骨格筋の概観を把握し、形状の分類ができる 2.骨の性状を理解できる 3.脊柱・胸郭・上肢骨・下肢骨・頭蓋の骨の形状を理解できる			評価方法			
授業概要	運動系の骨格系について学習する。			期末試験 90% 小テスト(4回)10% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	柔道整復学(理論編) 解剖学	使用器材	OHP				
週	授 業 項 目 ・ 内 容						実施結果
第1週	運動系 骨格系 総論 骨の役割						
第2週	運動系 骨格系 総論 骨質						
第3週	運動系 骨格系 総論 骨の発生と成長						
第4週	運動系 骨格系 総論 骨の結合						
第5週	運動系 骨格系 各論 脊柱 その1						
第6週	運動系 骨格系 各論 脊柱 その2						
第7週	運動系 骨格系 各論 脊柱 その3						
第8週	運動系 骨格系 胸郭						
第9週	運動系 骨格系 上肢骨 その1						
第10週	運動系 骨格系 上肢骨 その2						
第11週	運動系 骨格系 下肢骨 その1						
第12週	運動系 骨格系 下肢骨 その2						
第13週	運動系 骨格系 頭蓋骨 その1						
第14週	運動系 骨格系 頭蓋骨 その2						
第15週	復習練習問題						
授業外 学習指示等	3~4週間おきに、小テストを実行し、自宅学習する習慣を身につける。						

令和6年度

授 業 計 画 書

学科・学年	柔道整復学科 1年	科目名	柔道整復学Ⅳ	授業時期	前期	授業時数	30
実務経験		担当者	片岡 絹子	授業方法	講義	単位数	1
到達目標	1.筋の特性、補助装置について理解できる 2.頭部・頸部・胸部・腹部・背部の筋の起始・停止・作用が言える 3.上肢・下肢の起始・停止・作用が言える 4.筋の支配神経が言える			評価方法			
授業概要	運動系の筋(起始・停止・作用・支配神経)について学習する。			期末試験 90% 小テスト 10% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	柔道整復学(理論編) 解剖学	使用器材	OHP、液晶プロジェクター				
週	授 業 項 目 ・ 内 容						実施結果
第1週	運動系 筋系 筋の補助装置						
第2週	運動系 筋系 頭部の筋						
第3週	運動系 筋系 頸部の筋						
第4週	運動系 筋系 胸部の筋						
第5週	運動系 筋系 腹部の筋						
第6週	運動系 筋系 背部の筋						
第7週	運動系 筋系 上肢の筋 その1(上肢帯の筋)						
第8週	運動系 筋系 上肢の筋 その2(上腕の屈筋群)						
第9週	運動系 筋系 上肢の筋 その3(上腕の伸筋群)						
第10週	運動系 筋系 上肢の筋 その4(手の筋 母指球筋)						
第11週	運動系 筋系 上肢の筋 その5(手の筋 中手筋)						
第12週	運動系 筋系 下肢の筋 その1(下肢帯の筋)						
第13週	運動系 筋系 下肢の筋 その2(大腿の筋)						
第14週	運動系 筋系 下肢の筋 その3(下腿の筋)						
第15週	運動系 筋系 下肢の筋 その4(足の筋)						
授業外 学習指示等	3~4週間おきに、小テストを実行し、自宅学習する習慣を身につける。						

令和6年度

授 業 計 画 書

学科・学年	柔道整復学科 1年	科目名	柔道整復実技 I	授業時期	前期	授業時数	30
実務経験		担当者	片岡 絹子	授業方法	実習	単位数	1
到達目標	包帯法の理論が理解できる。基本包帯法を巻くことができる。肩部・肘部・前腕部・手関節部・手指部の基本包帯を巻くことができる。冠名包帯法をまくことができる。それぞれの包帯法のポイントを記述できる。			評価方法			
授業概要	柔道整復師の基本である包帯法を学ぶ。			実技試験 100% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	柔道整復学(実技編) 包帯固定学	使用器材	包帯、ギブス包帯、キャスト材等				
週	授 業 項 目 ・ 内 容						実施結果
第1週	包帯の目的、種類、材料等の説明						
第2週	基本包帯法⇒環行帯、螺旋帯、蛇行帯、折転帯、亀甲帯、麦穂帯						
第3週	基本包帯法実習						
第4週	基本包帯法実習						
第5週	肩部の麦穂帯(上行、下行)説明と実習						
第6週	肘部の亀甲帯(集合、離開)説明と実習						
第7週	前腕部の包帯(螺旋+折転)説明と実習						
第8週	手関節の麦穂帯 説明と実習						
第9週	手指部の包帯 説明と実習						
第10週	背部の包帯(背十字帯) 説明と実習						
第11週	冠名包帯法 1.デゾー包帯 説明と実習						
第12週	冠名包帯法 2.ヴェルボー包帯 説明と実習						
第13週	冠名包帯法 3.ジュール包帯 説明と実習						
第14週	冠名包帯法 復習						
第15週	前期総まとめ実習						
授業外 学習指示等	次の授業までに前回の包帯法が出来ているよう実習室で互いに日々練習すること。						

令和6年度

授 業 計 画 書

学科・学年	柔道整復学科 1年	科目名	柔道整復学Ⅱ	授業時期	前期	授業時数	30
実務経験	整骨院での施術勤務歴11年	担当者	平山 依里	授業方法	講義	単位数	1
到達目標	1. 関節の構造について理解出来る。 2. 関節の損傷について理解し、説明が出来る 3. 脱臼の発生機序や処置、分類について理解し、記述出来る。			評価方法			
授業概要	柔道整復学の総論(関節の損傷、脱臼の定義、分類、症状)について学習する。			期末試験90% 小テスト(3回)10% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	柔道整復学(理論編)	使用器材	OHP、液晶プロジェクター				
週	授 業 項 目 ・ 内 容						実施結果
第1週	関節の損傷(捻挫・脱臼) A 関節の構造と機能 その1(P47~P48)						
第2週	関節の損傷(捻挫・脱臼) A 関節の構造と機能 その2(P49~P52)						
第3週	関節損傷の概説・分類・鑑別疾患(P52~P53)						
第4週	関節構成組織損傷 靭帯・関節包の損傷(P54~P56)						
第5週	関節周辺の筋・腱損傷(P56)						
第6週	関節軟骨損傷 (1)(P56~P57)						
第7週	関節軟骨損傷 (2)(P58)						
第8週	その他の関節構成組織損傷(P58~59)						
第9週	脱臼の定義 定義と概説・発生頻度(P59~P60)						
第10週	脱臼の分類 (1)(P60~P62)						
第11週	脱臼の分類 (2)(P62~P64)						
第12週	脱臼の症状 一般症状・固有症状(P64)						
第13週	脱臼の合併症 整復障害 経過と予後(P65~P66)						
第14週	脱臼の経過と予後(P66)						
第15週	まとめ						
授業外 学習指示等	予習:授業を受ける前に教科書を熟読しておく。復習:3~4週間おきに、小テストを実行し、自宅学習する習慣を身につける。						

令和6年度

授 業 計 画 書

学科・学年	柔道整復学科 1年	科目名	柔道整復実技Ⅱ	授業時期	前期	授業時数	30
実務経験		担当者	平山 依里	授業方法	実習	単位数	1
到達目標	1.身体の構造について理解できる 2.四肢の周径や計測が出来る 3.各関節の動きについて理解し、実行でき記述も出来る。			評価方法			
授業概要	柔道整復師に必要な基礎的用語、四肢の長さの測定の仕方や注意点などを学ぶ。			期末試験 90% 小テスト(1回)10% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	四肢関節の触診法	使用器材	東大式角度計・メジャー				
週	授 業 項 目 ・ 内 容						実施結果
第1週	年間講義の概要説明・人体の外形と部位						
第2週	身体の基本肢位、姿勢、重心線						
第3週	身体の位置を示す用語（基礎的用語）						
第4週	身体の断面（垂直線）に関する解剖学的記述用語						
第5週	身体の方向線と横断線（水平面）						
第6週	体表解剖（頭部、顔面部、頸部、胸部、腹部、背部、上肢部、下肢部）						
第7週	機能肢位（良肢位）、四肢長（長さの計測）						
第8週	四肢の周径、関節の周径、						
第9週	四肢長の計測実習						
第10週	関節の運動（頸部）						
第11週	関節の運動（胸腰部）						
第12週	関節の運動（上肢）						
第13週	関節の運動（下肢）						
第14週	関節の運動まとめ						
第15週	総まとめ						
授業外学習指示等	復習の仕方を指導し、自宅学習する習慣を身につける。						

令和6年度

授業計画書

学科・学年	柔道整復学科 1年	科目名	衛生学・公衆衛生学 I	授業時期	前期	授業時数	30
実務経験		担当者	手塚 誠	授業方法	講義	単位数	1
到達目標	感染症対策など身近なところの公衆衛生学を学び、日常生活でどのような役割を果たしているかを知るようにする。			評価方法			
授業概要	人々の健康問題とそれをとりまく環境因子との相互関係に焦点を当て、地域住民の疾病予防、保健さらに進んで健康増進に寄与できるよう、公衆衛生活動の基礎的な知識とその考え方について学ぶ。			期末試験 100% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	衛生学・公衆衛生学	使用器材	白板、パワーポイント、映写装置				
週	授業項目・内容						実施結果
第1週	1.健康の概念1						
第2週	1.健康の概念2						
第3週	2.人口統計1						
第4週	2.人口統計2						
第5週	3.疾病予防と健康管理1						
第6週	3.疾病予防と健康管理2						
第7週	4.感染症対策1						
第8週	4.感染症対策2						
第9週	5.消毒1						
第10週	5.消毒2						
第11週	6.環境保健1						
第12週	6.環境保健2						
第13週	7.母子保健1						
第14週	7.母子保健2						
第15週	まとめ						
授業外学習指示等	日常生活でも役に立つことが多いので、日常生活と関連づけて学んでいくようにして下さい。						

令和6年度

授 業 計 画 書

学科・学年	柔道整復学科 1年	科目名	解剖学 I	授業時期	前期	授業時数	30
実務経験		担当者	手塚 誠	授業方法	講義	単位数	1
到達目標	人体の基本的な構造について理解する。			評価方法			
授業概要	人体の構造と機能を学び、柔道整復師になるための基礎学力をつけることを目的とする。			定期試験 50%			
				中間試験 50%			
				(100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	解剖学、ぜんぶわかる人体解剖図	使用器材	OHP、白板				
週	授 業 項 目 ・ 内 容						実施結果
第1週	解剖学総論①						
第2週	解剖学総論②						
第3週	骨格系① 総論						
第4週	骨格系② 脊柱						
第5週	骨格系③ 胸郭						
第6週	骨格系④ 上肢						
第7週	骨格系⑤ 下肢						
第8週	骨格系⑥ 頭蓋						
第9週	筋系① 総論						
第10週	筋系② 頭部・頸部						
第11週	筋系③ 胸部・腹部						
第12週	筋系④ 背部						
第13週	筋系⑤ 上肢						
第14週	筋系⑥ 下肢						
第15週	まとめ						
授業外学習指示等	解剖はイメージも重要です。初めのうちは、絵や写真など多く載った資料などを見て、イメージが湧くようにして下さい。						

令和6年度

授 業 計 画 書

学科・学年	柔道整復学科 1年	科目名	生理学 I	授業時期	前期	授業時数	30
実務経験		担当者	脇田 真仁	授業方法	講義	単位数	1
到達目標	・講義内容(生理学の基礎、血液の生理学、体液の生理学、循環の生理学、呼吸の生理学)の理解。 ・講義毎の小テストをすべて解けるようにし、着実に国家試験に備える。			評価方法			
授業概要	人体の生理機能を明らかにし、その機能がどのような機序で現れるかを理解し、柔道整復師として必要な生理学の基礎知識(生理学の基礎、血液の生理学、体液の生理学、循環の生理学、呼吸の生理学)の修得を目指す。			期末試験 100% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	生理学	使用器材	パソコン、液晶プロジェクター				
週	授 業 項 目 ・ 内 容						実施結果
第1週	第1章 生理学の基礎 A:生理学とは B:人体を構成する要素 C:ホメオスタシス D:体の化学的構成						
第2週	E:細胞の機能的構造 F:拡散、浸透、ろ過 G:受動輸送と能動輸送 H:エンドサイトーシスとエクソサイトーシス						
第3週	第2章 血液の生理学 A:血液の役割 B:血液の組成(血漿、赤血球)						
第4週	B:血液の組成(白血球) C:免疫機能						
第5週	D:血液型 E:血液凝固						
第6週	第12章 体液の生理学 A:体液区分と水バランス B:体液のイオン組成 C:体液の恒常性 1、2)						
第7週	C:体液の恒常性維持のしくみ 3、4						
第8週	第3章 循環の生理学 A:心臓の機能(心臓の構造、心筋の基本的性質、心電図)						
第9週	A:心臓の機能(不整脈、心臓のポンプ機能) B:血管系(各血管の構造とはたらき)						
第10週	B:血管系(血圧) C:リンパ管系 D:循環の調節(神経性調節)						
第11週	D:循環の調節(体液性調節、局所せい調節) E:局所循環 F:脳脊髄液循環						
第12週	第4章 呼吸の生理学 A:呼吸器の機能的構造 B:換気						
第13週	C:ガス交換 D:酸素の運搬 E:二酸化炭素の運搬						
第14週	F:呼吸調節のしくみ G:呼吸の異常 H:特殊環境下の呼吸 I:人口呼吸						
第15週	まとめ						
授業外学習指示等	授業を受ける前の予習として、教科書を熟読しておく。 毎回の講義で配布する小テストの問題はすべて解けるように復習する。						

令和6年度

授 業 計 画 書

学科・学年	柔道整復学科 1年	科目名	情報技術	授業時期	前期	授業時数	30
実務経験		担当者	西釜 涼子	授業方法	講義	単位数	2
到達目標	1.情報機器を効果的に活用するために必要な知識と技能を習得する。 2.社会の中で、情報技術が果たしている役割について理解する。 3.情報社会に主体的に対応できる能力と態度を身に付ける。			評価方法			
授業概要	現代社会における情報技術の役割について理解し、ワープロソフト、表計算ソフト、プレゼンテーションソフトの基礎的な技術を学ぶ。			平常点 50% 期末試験 50% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	30時間でマスター Word & Excel	使用器材	デスクトップ型パソコン				
週	授 業 項 目 ・ 内 容						実施結果
第1週	Wordを起動。マウスの操作やひらがな、かたかな、漢字、アルファベットの文字入力について学ぶ。						
第2週	Wordを起動。文章の入力の練習をする。Wordのページ設定について学ぶ。						
第3週	Wordを起動。文章の入力の練習をする。複写・削除・移動について学ぶ。						
第4週	Wordを起動。文章の入力の練習をする。編集機能について学ぶ。基礎的な文章の作成をする。						
第5週	Wordを起動。文章の入力の練習をする。表を作成編集する方法を学ぶ。表付き文章の作成をする。						
第6週	Wordを起動。文章の入力の練習をする。画像・テキストボックスの挿入について学び、文章の作成をする。						
第7週	PowerPointを起動。スライドのレイアウト、文字入力、図形画像の挿入について学ぶ。						
第8週	PowerPointを起動。アニメーションの付け方を学ぶ。プレゼンテーションの方法を学ぶ。自由課題により、プレゼンテーションの作成をする。						
第9週	PowerPointを起動。プレゼンテーションの作成、発表をする。						
第10週	Excelを起動。表の作成や算術演算子による計算方法を学ぶ。						
第11週	Excelを起動。表の編集について学ぶ。グラフを作成する。						
第12週	Excelを起動。最大値、最小値、数値の個数、順位づけなどの関数について学ぶ。						
第13週	Excelを起動。判定、条件による集計、表の検索などの関数について学ぶ。						
第14週	Word、PowerPoint、Excelについて総復習をする。						
第15週	まとめ						
授業外学習指示等	私たちの生活の中で、情報技術は必要不可欠なものとなりました。授業では基礎的な技術を学んでいきます。しっかりと身に付けていきましょう。						

令和6年度

授 業 計 画 書

学科・学年	柔道整復学科 1年	科目名	医学英語	授業時期	前期	授業時数	30
実務経験		担当者	春田 清美	授業方法	講義	単位数	2
到達目標	外国人雇用の増大で外国籍の患者さんを受け入れる際に求められる、基本的な医療英語を理解し、修得することを目標とする。			評価方法			
				期末試験 40%			
授業概要	今では医療関係の分野では英語は不可欠な存在であり、柔道整復師も例外ではない。そのため、基礎的医学用語を理解する。			小テスト40% 授業態度20% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	資料配布	使用器材	白板等				
週	授 業 項 目 ・ 内 容						実施結果
第1週	①ハンドブック 挨拶、初診、診察 (P2~8) ②リハビリ英会話 Lesson1 初回の挨拶 (P2~7)						
第2週	①ハンドブック 問診、部位、原因 (P10~12) ②リハビリ英会話 Lesson2 痛む部位 (P8~13)						
第3週	①ハンドブック 痛み、症状 (P13~14) ②リハビリ英会話 Lesson3 痛みの種類や程度 (P14~19)						
第4週	①ハンドブック 視診 (P16~18) ②リハビリ英会話 Lesson5 基本的な肢位 (P26~31)						
第5週	①ハンドブック 触診、姿勢 part2 関節運動の表現 (P19~21) ②リハビリ英会話 Lesson6 応用的な肢位 (P32~37)						
第6週	①ハンドブック 超音波診察、診断の確定、組織、疾病 その他 (P24~29)						
第7週	①ハンドブック 施術、治療法 (P32~33) ②リハビリ英会話 Lesson8 自動可動域 (P46~51)						
第8週	①ハンドブック 確認、痛み、対処、予約、注意事項 (P34~36) ②リハビリ英会話 Lesson9 他動可動域 (P52~57)						
第9週	①ハンドブック 会計、お見送り、その他 (P38~40) ②リハビリ英会話 Lesson10 体幹の可動域 (P59~63)						
第10週	①ハンドブック 人体、筋肉、骨の名称 (P43~52) ②リハビリ英会話 Lesson11 頸部の可動域 (P64~69)						
第11週	①ハンドブック 関節運動の表現 (P53~55) ②リハビリ英会話 Lesson12 筋力測定 (P70~75)						
第12週	①ハンドブック 関節運動の表現 (P56~58) ②リハビリ英会話 Lesson14 バランス検査 (P82~87)						
第13週	②リハビリ英会話 Lesson15 歩行評価 (P88~93) ③損傷総論 (1) (P93~95)						
第14週	②リハビリ英会話 Lesson17 RICE処置 (P100~106) ③損傷総論 (2) (P97~102)						
第15週	Review (復習) ①ハンドブック 診察申込書 (P59~61)						
授業外 学習指示等	自宅学習では、30分程度の復習を実施し、授業においては、最大限の集中力で臨んでもらいたい。						

令和6年度

授 業 計 画 書

学科・学年	柔道整復学科 1年	科目名	心理学	授業時期	前期	授業時数	30
実務経験	病院の心療内科で臨床心理士として勤務有り	担当者	北村 紘美	授業方法	講義	単位数	2
到達目標	1 認知、感情、学習における心の働きを理解し、その仕組みや代表的理論について概説できる。 2 動機付けやストレス、社会心理を理解し、適応に関わる内外からの心理的要素を考察できる。 3 心理発達について理解し、各段階における特徴の概要を述べるができる。 4 心理学的介入の理解により、身体のみでなく人格や心理を含めた全人的な見方や考え方ができるようになる。			評価方法 期末試験 100% (100点換算で60点以上で合格)			
授業概要	心理学における人間理解や行動科学などについて学ぶことで、将来対人援助職として他者に関わる際の一助となることを目的とする。						
教科書等	医療行動科学のためのミニマム・サイコロジー(北大路書房)	使用器材	液晶プロジェクター				
週	授 業 項 目 ・ 内 容						実施結果
第1週	『心理学について』心理学にまつわる一般的なイメージや疑問について解説。心理学とはどんな学問か、医療と心理学との関わりについて学ぶ。(教科書P2～11)						
第2週	『感覚と知覚』人間がどのような心理的機能を通して外界を感じ、知覚し、認知しているかについて学ぶ。(教科書P44～55)						
第3週	『感情』感情とはどのようなものか。感情の機能と認知や情報処理への影響、感情の障害について学ぶ。(教科書P56～65)						
第4週	『記憶』記憶の種類と働き。各種記憶の特徴、記憶の障害について学ぶ。(教科書P34～43)						
第5週	『学習』学習とは何か。学習における条件付けとはどのようなものか、様々な学習の特徴と応用について学ぶ。(教科書P22～33)						
第6週	『欲求と動機付け』人間の行動における欲求と動機付けの働きや種類、仕組みについて学ぶ。(教科書P66～75)						
第7週	『社会心理学』私たちはどのように社会を認知するのか。自己と他者とは。個人と集団の心理的要素や影響について学ぶ。(教科書P76～85)						
第8週	『ストレスとコーピング』ストレスとはどのようなものなのか。ストレスの人への影響。ストレスの緩和と管理について学ぶ。(教科書P86～96)						
第9週	『パーソナリティ①』パーソナリティとは何か。代表的な人格理論や人格がどのように形成されるのかについて学ぶ。(教科書P98～101)						
第10週	『パーソナリティ②』様々なパーソナリティの捉え方。心理テストなど人格をどう測定するかについて学ぶ。(教科書P102～107)						
第11週	『心の発達と心の危機①』心はどのように発達するのか。発達段階や発達課題という考え方について学ぶ。(教科書P118～123)						
第12週	『心の発達と心の危機②』青年期・中年期・老年期における心理発達とその課題とはどのようなものなのかを学ぶ。(教科書P124～127)						
第13週	『心理学的介入①』精神分析や行動療法など代表的心理的介入とその考え方や人間理解の特徴などについて学ぶ。(教科書P128～131)						
第14週	『心理学的介入②』人間中心主義やカウンセリングについて学び、心理面をも含めた患者対応について考える。(教科書P132～138)						
第15週	まとめ						
授業外学習指示等	1 講義に臨む前に教科書の該当箇所を確認し、疑問点や分からない所があれば講義中に質問できるように準備しておくこと。 2 復習は、その授業の重要事項について次回講義までに振り返ること。						

令和6年度

授 業 計 画 書

学科・学年	柔道整復学科 1年	科目名	表現法	授業時期	前期	授業時数	30
実務経験		担当者	石松 豊子	授業方法	講義	単位数	2
到達目標	1 国語領域における言語について、基本的な知識を深めて確立する。 2 個人と集団、社会において相互の信頼関係を構築できるように、コミュニケーションを確立する。			評価方法			
授業概要	国語領域における言語に関する基本的な知識を深め、理解をして表現する能力と態度を養う方法を教授する。特に、正しく円滑にコミュニケーションを行うための言語感覚を豊かにさせる。			期末試験 80点 平常点 20点(小テスト、提出物) (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	就職活動のための文章表現力基本テキスト	使用器材	白板				
週	授 業 項 目 ・ 内 容						実施結果
第1週	表現法の講義概要の説明 第1章 作文の書き方の基本						
第2週	作文の構成を考える 作文の草稿を書く						
第3週	第1章 演習テキストP30						
第4週	第2章 文章表現の基本 効果的なき句読点の打ち方 記号の使い方						
第5週	第2章 演習テキストP44						
第6週	第3章 日本語表現のブラッシュアップ 話し言葉と書き言葉						
第7週	第3章 演習テキストP64						
第8週	言葉づかひの基礎知識 挨拶.お礼.お詫び						
第9週	言葉づかひの演習問題						
第10週	敬語の使い方 ビジネス敬語						
第11週	敬語表現演習問題						
第12週	第4章 自己PR文の書き方 自己PR文を書くためのプロセス 自己分析をまとめる						
第13週	自己PR文－草稿(1).(2)を書く						
第14週	ビジネス文書の書き方 社内文書 社外文書 Eメール活用						
第15週	コミュニケーション力が身につく話し方 クッション言葉の使い方						
授業外 学習指示等	・講義で指示された課題に取り組むこと。 ・学習プリント・課題プリントなどは、計画を立てて取り組み、提出日を厳守すること。						